

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103755
法人名	有限会社 三光資産
事業所名	グループホームさんこう
所在地	松山市南土居町131-1
自己評価作成日	平成24年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの意思や生活リズムを尊重し、穏やかで安らぎのある生活を過ごせるように、一人ひとりの希望や訴えを把握し、利用者の立場に立った支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月11日

●「実家へ帰ってみたい」と希望する利用者の方には、病院受診の帰り道、職員と一緒に実家を見に行くこともあり、ご本人は喜ばれるようだ。元の職場の同僚の方が尋ねて来られるような方もある。「お墓参りに行きたい」と希望する利用者には、職員が同行されており、墓地まで行かれて、お墓の場所を見つけることはできなかったようだが、ご本人はとても満足されたようだ。

●気候のいい時には、近所の公園へ散歩に出かけたり、数名で買い物に出かけ、フードコートでコーヒーを飲んでおしゃべりを楽しむこともある。

●若い頃に取得した書道の免許証を額に入れて飾っている方があり、現在も、毎年書道コンクールに出展されている。コンクールでもらった賞状を壁にたくさん飾っておられた。演歌歌手のポスターを壁一面に貼っている方は、その歌手が出演する番組を録画して見ておられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さんこう

(ユニット名) 1 階

記入者(管理者)

氏名 村上 健太郎

評価完了日

平成24年 9月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者の地域参加や地域住民との交流を通し、地域社会との繋がりを感ぜられる理念を作り上げている。 日々の申し送りやミーティングの際、理念に基づいて話し合いを行っている。	
			(外部評価) 職員で話し合い、理念を「尊厳ある自由なかかわりのある暮らし」と作成されている。理念は居間に掲示されており、職員は夜勤時等に、日々の自分自身の行動を理念に照らして振り返っておられる。管理者は、理念の実践に向けて、「1.サービスする心を持つ 2.プロ意識を持つ 3.興味を持つ 4.自分の行動を探求しよう 5.目標を持つ」と示して、職員に働きかけておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常の散歩などの際には気軽に挨拶をされている。 夏祭りや秋祭りなど地域のイベントに利用者と共に参加し、交流を行っている。	
			(外部評価) 近所の公園で行なわれる地域の夏祭りに、利用者は職員と一緒に参加して、盆踊りを踊ったり出店で買い物等して、地域の方と交流して楽しんでいる。秋祭りには、事業所の駐車場に神輿と獅子舞が来てくれて、お茶をお出しして、地域の方は休憩される。お隣のお宅の方が外で畑仕事をされる時には、挨拶してお話等されており、庭に咲く花や野菜をくださることもある。事業所では地域の中学生の職場体験を受け入れておられ、今年も3名の生徒が来られた。管理者は、これをきっかけに、事業所へ遊びに来てもらえるよう声をかけられた。地域のボランティアの方も来られており、近々お琴の演奏が予定されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域での研修や講習にも参加し、地域のお年寄りの現状の把握に努めたり、日頃から地域住民からの相談も受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 一方的な報告や説明の場にならないよう、率直な意見が出し合えるよう配慮している。 出された意見は、日々の申し送りやミーティングなどで報告、話し合いを行っている。	管理者は、会議を「家族の交流の場としたい」「もっといろいろな情報をやり取りする場にしたい」と考えておられる。さらに、いろいろな立場の方が参加しやすいような会議について工夫を重ねられ、ネットワークを拡げ、事業所の理解者やサポーターを増やしていかれてほしい。
			(外部評価) 会議には、町内会長や民生委員、市の介護保険課の職員が出席されており、外部評価の報告や今後の取り組み等についても話し合われている。事業所では、7月から医療連携の体制を整備され、訪問看護事業所と連携して支援するようになり、8月の会議時には「医療連携について」について議題に挙げ、訪問看護事業所の看護師の方にも出席していただいた。ご家族にも会議の案内はされているが、現在はご都合等もあり、参加は少ないようである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) いつでも連絡や協議をしながら、問題解決を図るよう体制をとっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の担当者の方から「感染症予防対策について」アドバイスをいただいた。又、市の担当者に、成年後見制度についての相談をされて、利用者の制度利用につなげたり、事業所を「災害時の一時避難所」として使用していただけたよう、市に伝えておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会やミーティングを通して日頃から身体拘束に対する意識を高め、注意している。	
			(外部評価) 各ユニットの入り口のドアを開けるとチャイムが鳴るようになっており、職員は利用者の見守りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会やミーティングを通して日頃から虐待防止に対する意識を高めている。また、家族の方にもできる限り訪問していただき、閉鎖的な虐待を生むような環境にならないよう注意を払っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 機会あるごとに職員への説明を行っており、必要な場合はすぐに支援できる体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、一つ一つの事項毎に理解・納得されているか確認を取りながら説明を行っている。又、家族等からの質問の時間も納得されるまで十分取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の来所時には、意見・不満・苦情等が表せ易いよう時間と場面作りを行っている。また、電話でもこちらからの問いかけを心がけ意見・不満・苦情の言い易い雰囲気作りを行っている。 出された意見はすぐに職員間で話し合いを行い、運営に反映している。 (外部評価) 毎月ご家族に送付する書類には、利用者の写真や事業所での生活の様子を手紙にして同封されている。又、利用者の日々の様子は、小まめに電話で連絡されたり、ご自宅にうかがいお話しの方がよい内容の時には、管理者がご家族宅を訪問してお話しして、意見を聞き取っておられる。「病院に入院したらその後、ホームに帰れるのか？」と心配するご家族もあり、その後のことも相談しながら支援していくことを話された。1月には、事業所から「家族会発足」の働きかけをされたが、ご家族の高齢化等もあり、出席者は2名に止まり、活動するまでに至らなかったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りやミーティングなどで話し合いを行い、改善を行っている。	
			(外部評価) 職員会議では、外部研修の報告をされたり、利用者個々の介護計画についてモニタリングを行っておられる。職員から「レクリエーションがマンネリ化しているのではないか」という意見が出され、「魚釣りゲーム」等、新しいレクリエーションができるよう話し合われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々に話しをしたりして、状況を把握している。そして各スタッフの悩みや希望を反映できるように職場環境の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 市や県、地域での研修や交流会参加を進めたりして、それに合わせた勤務調整などを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域での交流会などに参加し、交流を図っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 先ず、本人より訴えや話しを十分に傾聴し、思いや希望を把握し安心してサービスの利用ができるよう信頼関係づくりに努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の困っていることや要望等を理解し、安心してサービスを御利用していただけるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の状況等を確認し必要なサービスが受けられるよう柔軟な対応を行い、必要ならば他事業者との相談やサービス利用等の連携をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が気軽に声かけができるように努めて、気軽に相談などを受けたり、世間話しを楽しまれている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一緒になって本人を支えていけるように、本人を交えて話をしたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人のなじみの場所、友人、美容院、歯医者、病院とも関係が途切れないように家族を通して交流できるよう支援している。 (外部評価) 「実家へ帰ってみたい」と希望する利用者の方には、病院受診の帰り道、職員と一緒に実家を見に回ることもあり、ご本人は喜ばれるようだ。元の職場の同僚の方が尋ねて来られるような方もある。「お墓参りに行きたい」と希望する利用者には、職員が同行されており、墓地まで行かれて、お墓の場所を見つけることはできなかったようだが、ご本人はとても満足されたようだ。ご自宅に泊まり、馴染みの美容院へ行く方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日の食事や午前・午後のおやつ時に職員も一緒に過ごし、利用者同士の関係の理解を深めるとともに、間に入って利用者同士のコミュニケーションが取れ合うよう支援し特定の利用者の孤立が生じないよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も家族との連絡を取り合いながら関係を続け、必要であれば再度のサービス利用の相談にも対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族から情報を得よう努め、本人にとって何が最適な暮らしなのかを家族を交えて検討している。 (外部評価) 利用者の日常の会話や行動については、介護記録とともに「気付きノート」や「申し送りノート」に書き留めて職員間で申し送りをされている。利用者の表情を見ながら、居室や入浴時に、「何か困ったことはない？」と声をかけて、うかがうようにされている。	利用者一人ひとりの暮らし方の希望等について、これまでの習慣や、現在の暮らし方の希望、又、今後どのように暮らしたいか等について、いろいろな場面を捉えて、思いや意向の把握に努めていかれてほしい。今後さらに、利用者主体の暮らしを支えていけるよう、得た情報を介護計画につなげて支援に取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前や利用直後は、当事業所を利用するに至った経過やそれまでの生活歴について本人や家族等より聞きとり、暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中から本人の生活のリズムや暮らし方について申し送りや気づき等を利用しながら現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>普段の会話の中から本人の思いや意向を掴み取り、それを基に職員間で十分な話し合いを行い利用者主体の介護計画の作成を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人やご家族から情報を聞き取り、ケアマネジャーが介護計画を立て、ご家族に意見を聞くようにされている。モニタリングは、毎月の職員会議時に行い、3ヶ月毎に見直しをされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランに沿った介護記録を行うようにし、日々の食事、水分、排泄の記録だけでなく、本人の会話や職員の対応・会話等も記録し、情報の共有を行っていくことで統一した対応が取れるよう努める。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の状況に応じ、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。また、緊急の受診や入院にも医療連携体制を活かし対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行事等を通して地域住民と交流を図ったり、敬老の日等には近隣の小学校から手紙を頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 必要に応じ民生委員や警察、消防等協力し合っており、安心して生活を送っていただけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 病院受診時は、ご家族が付き添うようになっているが、ご家族の都合によっては職員が同行されている。協力医が、月に1回、往診に来てくださっている。7月から訪問看護ステーションと連携を取り、24時間対応が可能となったことで、「点滴が必要な利用者も入院することなく事業所で点滴を行ったり、夜間の急変時についても連携して支援できて」ご本人、ご家族や職員の安心につながっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 提携する病院の定期的な往診や訪問看護事業所より看護師の定期的訪問を行っており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行ってもらっている。また、緊急の場合等は24時間相談、受け入れができるよう連携をとっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は家族や病院と情報交換をしながら、事業者内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 早期から関係者と話し合いを十分に繰り返し行い、重度化した場合、事業所での最大の支援方法を本人や家族に説明し理解していただいている。</p> <p>(外部評価) 重度化した場合は、主治医とご家族で話し合い、入院となることが多い。現在は、「事業所で最期まで過ごしたい」と希望する利用者やご家族はいないようだが、管理者は「利用者のご家族が事業所での看取りを希望されれば、ご家族と相談しながら看取りを支援をしたい」と話しておられた。今後、住みなれた、馴染みのあるご自宅やホームで自然に亡くなることを希望する利用者やご家族があった場合、利用者の最期をご家族と支えていくために、「事業所でどのような支援ができるか」ということを話し合われてみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングなどで定期的に対応の訓練をしたり、実例に基づいた話し合いを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練などを行っている。	
			(外部評価) 夜間の火災を想定して避難訓練を実施されている。利用者も参加して避難に要する時間も計ってみられた。民生委員にも参加いただき、利用者の見守り等に協力をいただいた。職員は日頃から「ガスを使っている間はその場を離れない」「離れるときには必ず火をとめる」よう気を付けておられる。事業所では、食料は3~4日分備蓄されている。管理者は、職員に「災害時は通報を早く行う」ことを指導されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 普段の関わりや記録等において、誇りやプライバシーを損ねるようなことがないよう、職員には日々のコミュニケーションの中で常に細心の注意を払うよう徹底している。	
			(外部評価) 職員は、利用者の生活歴を踏まえて、会話等にも気を付けておられる。又、利用者には「教えてもらう」という気持ちでかかわられるよう心がけておられる。トイレ介助時、職員は利用者に合わせて、ドアは全部閉める方、少し隙間を開けて見守る方等、それぞれが安心できるような、又、プライバシーにも配慮した支援に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何か行動を起こす場合でも、必ず利用者の意思を確認してから行うようにしており、また、意思表示困難な方には表情や体の動きから意思を確認し、できるだけ本人に決めていただくよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事おやつの時間、食べる場所、その日の過ごし方、就寝時間等細かくは決めずにその日の状況によって柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の着替えは意思表示できる方には、本人に着る服を決めてもらっている。なじみの美容院も利用していただいたり、希望があればヘアカラーや自由に化粧もしていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望や好みに対応した栄養バランスの摂れたメニューにしている。食事前後の準備や片付け、料理の下ごしらえもスタッフと一緒に楽しみながら行えている。 (外部評価) 献立は、利用者の希望を聞き、職員で話し合って1週間分ずつ立てておられる。食材は週に2回、配達してもらっている。冷凍食品の使用は極力控え、野菜等、新鮮なものを農家から分けてもらったり、お米も玄米を農家から直接購入して、その都度精米し、おいしいごはんが食べられるようにされている。居間のホワイトボードに、職員が今日の献立を書いておられ、話題にされている。調査訪問時、うどんの器が大きく食べにくそうにしていた利用者に、職員は、小ぶりのお椀に少しずつ移して、ご自分で食べられるよう支援されていた。食後、利用者が食器を台所の流し台まで下げておられる様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態や嗜好に合わせてケアプランを作成し、柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとり声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの力やパターンを把握し、本人と相談をおこない、声かけをしたり、誘導、介助を行っている</p> <p>(外部評価) 職員は、昼食後、利用者がトイレに行けるよう誘導されていた。介助で便器に移乗した後は、職員はトイレの外で待ち、プライバシーやご自分でできることへ配慮されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ジュースやコーヒーなどを用意し、水分摂取しやすいようにしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 混乱されたりするため時間をきめている。個々の状態などに合わせて時間を変えたりするなど、柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価) 一般家庭のような浴槽で、温まるのが難しい利用者には、椅子に座ったままで入れる機械浴を使用して湯船で温まれるよう支援されている。長湯がお好きな方にはゆっくり入れるよう、声かけ等も控えて、さりげなく様子を見守るようにされている。又、入浴を嫌がる方には、時間をおいて誘ったり、タイミングをみて誘い、入浴につなげておられ、入浴後は「気持ちよかった」と喜ばれるようだ。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) その時の状況に合わせて声かけなどを行い、臥床を勧めたりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 必要に応じてバイタルサインチェックを行い、症状変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみやメモ紙作りなどの軽作業、風船バレーやパズルなどレクリエーションを個々に合わせて勧めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気に応じて周辺の散歩や外気浴などを勧めている。また本人の希望に合わせて買い物に行ったりしている。 (外部評価) 気候のいい時には、近所の公園へ散歩に出かけたり、数名で買い物に出かけ、フードコートでコーヒーを飲んでおしゃべりを楽しむこともある。4月のお花見は、近所の公園へ全員で出かけて楽しまれた。又、コスモスや菜の花等、季節の花を見に出かけておられる。	管理者は、「少人数での外出にも取り組みたい」と考えておられ、又、職員は、「外出の機会を増やしたい」と話しておられた。利用者の行きたい所や懐かしい場所、やってみたいこと等を探り、利用者個々の生活を上げていけるよう、いろいろな取り組みにチャレンジしていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々に合わせて本人が管理し、希望に応じて買い物に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人や家族の希望に応じて電話を掛けたりされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			混乱させないため不要な物はなるべく置かないようにしている。	
			(外部評価)	
			居間の窓から西日が強く差し込む時間帯には、暖簾を使用したり、ブラインドで調節したりされている。昼食にうどんを食べて「暑い」と汗をかいていた方には、職員が扇風機の風が当たるようにされていた。2階のベランダには利用者と植えたお花が咲いており、利用者が毎日水遣りをされている。洗濯物を干す時には、車椅子を使用する利用者は、洗濯物をハンガーにかけ、歩ける方はベランダに干す等、利用者のできることを行えるよう支援されている。昼食後はジグソーパズルをされる方や新聞を読む方、テレビを見る方等、それぞれに経過しておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テレビの前にソファを置いたり、テラスに椅子や畳を用意してのんびりして頂けるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人や家族と相談し必要な物を揃えたり、室内のレイアウトを変えるなど工夫している。	
			(外部評価)	
			若い頃に取得した書道の免許証を額に入れて飾っている方があり、現在も、毎年書道コンクールに出展されている。コンクールでもらった賞状を壁にたくさん飾っておられた。演歌歌手のポスターを壁一面に貼っている方は、その歌手が出演する番組を録画して見ておられる。自室を職員と一緒に掃除される方や、ペットボトルにお茶を入れて、いつでも飲むようにしている方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			歩行の不安定な方が安全に歩行できるよう、又歩行力が持続できるよう手すりを設置。また自力でトイレで排泄できるよう、立位の不安定な方に手すりを設置。家庭浴で不安定な方に安全に入浴していただくために、機械浴を設置している。	